

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

一般社団法人日本伝統文化の会

所在地	東京都港区	設立年	2020年
運営主体	日本伝統文化の会、港区邦楽邦舞連盟、地唄箏曲美緒の会		
事業目標	事業目標は子供たちの豊かな感性や情操を養うことを目的に、日本固有の文化である邦楽のワークショップを授業や部活動の中で行っていくこと。		
きっかけ	子供たちが身近な地域で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保できるよう、地域の文化施設や文化芸術団体、芸術系教育機関が中心となって学べる環境を整えて行きたいという思いからはじめた。		
団体・組織等の連携			
活動場所	都内小・中学校及び都内の高等学校、公共施設等		
活動概要	各学校の教室(ランチルーム等広い教室)や体育館で講師2人から6人プラス音楽の教師を中心に活動。講師の人数やお箏の面数などを変え、どのような体制が好ましいかを検証。また、講師の年齢も幅広く派遣し、生徒たちの反応を観察しながら活動を行った。		

○本事業による成果

- ・小学生は4年生・5年生の体験学習で普段はふざけがちな子供も真剣なまなざしで初めての体験にとりこんでおり、先生方も驚く場面が数多く見受けられた。
- ・教室はランチルーム等広い教室を使用して体験学習を行う場合が多く、その場合お箏を10面使用し、1面を3人から4人の生徒で使用。1時限授業内で生徒がお箏に触れる回数はひとり6回から10回となる。しかし体育館などの広い場所で行う場合はお箏を20面使用し、1面を1人から2人の生徒が使用。生徒がお箏に触れる回数は格段に増え「さくらさくら」を全員が合奏するまでに習得するケースがほとんどだった。また、お箏を弾けない教師も一緒に参加することで、お箏の楽しさや、音色などの魅力を感じ、今後の授業にお箏を積極的に取り入れていく可能性が増えると思われる。
- ・小学校での和楽器体験をすることで、中学校や高等学校に進学し、部活動としてさらに経験を積む生徒が出てくる可能性がある。



体育館で数多くのお箏で体験



ランチルームでお箏の体験



リコーダーとお箏のコラボレーション

- ・中学生は学校が成果発表の場を設けてくれていることもあり、本番に向けて真剣に練習。お箏だけでなく、三味線の体験授業も行ったが、選択制のためかお箏は女子生徒のみだった。お箏は正座をしない立奏スタイルにすることで男子生徒も演奏しやすくなり、お箏の魅力を経験してもらえる可能性がある。男子生徒が加わることで力強い演奏が期待でき、部活動でも女子生徒の文化部というイメージからパワフルな和楽器クラブとして発展する可能性がある。



お箏は女生徒のみで男子生徒の申し込みはなかった。立奏にすることで解消できる可能性あり



三味線はギター感覚で弾く生徒もいた

- ・高等学校では定時制の生徒を対象に体験授業を行った。外国籍の生徒も多く、外国籍の生徒は日本伝統文化に関心を持ち、和楽器の学習を通して日本文化に対し理解を深めていた。高校生は少し好き嫌いが顕著に出るかと思っただが、講師指導のもと素直に習得を深め、全員の合奏は一体感あるものとなった。定時制は特に外国籍の生徒が多いこともあり、部活動として和楽器を取り入れることで、日本の伝統文化の理解を深めるきっかけとなる可能性がある。



定時制の高校で授業が遅い時間にも関わらず、集中してお箏を弾いている姿に、先生方も驚いていた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

楽器商と連携し、不足がちな和楽器の数を増やし、多くの生徒たちが飽きることなく練習に取り組める。また、さくらさくらなどの邦楽の演奏だけでなく、芸大卒の若手指導者によるアニメソングの演奏などを聞かせた。これらの工夫により、学習指導要綱に規定している和楽器の演奏体験がより積極的に行われるようになるように工夫した。

○運営上の工夫

生徒数と場所や楽器数を事前に調整し、学校と演奏家、楽器商の連携に重点を置き生徒にとってのメリットを追求し、学校が保有する楽器だけに依存することなく、レンタル楽器の導入を図った。それらのことで、生徒が和楽器に触れる回数が増え、短い時間でも十分楽しんで演奏することができる環境を整えた。

○継続的な運営に関する課題・展望

今回の活動は部活動より和楽器演奏体験としての授業として行ったため、活動費は自治体などの支援が必要となる。今後は子供たちが和楽器の演奏により興味を持つようになり、部活動としても実施できるようにさらに工夫を続けたい。さらに楽器商や指導者を地域毎にまとめ、地域文化活動として実施できるようにデータベースの構築を図る。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

和楽器の授業をサポートしながら、地域ごとに楽器商や演奏家をデータベース化し、学校の特性に合わせた部活動を実施できる体制を作る。子供達には洋楽やアニメソングなども演奏させて和楽器の楽しさを体験させ部活動への参加意欲を高める。地域との連携を強化することで教員の負担を減らし、さらに学校の施設を活用した地域住民との合同演奏会などを開催するなど、地域文化活動へと発展することが可能と考える。

参加者 (予定人数)	対象学年 小・中・高 1クラス20人から30人 30クラスの体験授業 今後の予定人数 上記の人数プラス 年齢関係なく100人
募集方法	チラシの配布・ホームページでの公募・学校への案内等
指導者	各団体からの要望に合わせて3名から7名を派遣。また、芸大を卒業したばかりの若者の登用など多岐にわたる人材を派遣。
移動手段	各自
活動費用	講師謝礼金 楽器レンタル料 施設使用料
スケジュール	4月～3月 各学校での体験授業 2月 ワークショップ参加者を含め舞台発表 その他 神明子ども中高生プラザにて放課後部活動に変わる場で演奏指導 等
保険加入等	特になし

【活動の様子（写真添付）】



広い体育館で1人に1面のお箏で体験。たっぷり練習ができました。



体育館で2人に1面のお箏で体験。黙ってみていたり、隣で教えてあげたり、と協力して練習しました。



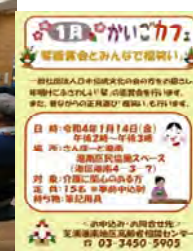
ランチルームで3人に1面のお箏で体験。隣で楽譜を読んだり、歌ったりと賑やかに練習。順番を守ってみんな平等に体験学習を楽しんでいました。



担任の先生、音楽の先生も生徒と一緒に体験。和楽器の良さを十分体験していただきました。お箏を保有している学校は、しまっておかず活用していただける可能性を広げられたと思います。



普段慣れない正座も頑張ってくれました。質疑応答もあり、活気のある体験授業ができました。「和楽器をどこで習えるの?」といった質問もありました。地域で子供たちが和楽器を習える環境を整えなければならぬと強く感じました。



港区港南にて営業活動

保育園や中高生プラザがある施設の高齢者センターで和楽器の鑑賞会を行いました。地域の方々や介護に興味をお持ちの若者が対象の演奏会でしたが、数多くの方が鑑賞に来て下さいました。今後もこのような地域での活動から和楽器の良さを広げ、幅広い年齢層を取り込み、地域密着型の環境を作る活動をさらに広げていきたいと思っています。



初めてのワークショップを開催。港区をはじめ6区で開催。皆さんの成果は2月末に行われた日本橋公開堂での「楽歌踊謡」の舞台で合奏を披露しました。発表の場を設けることでワークショップも毎回力が入ります。

港区内の中学校で行われた日本文化体験学習の中のお箏とお三味線の講師を担当させていただきました。楽器は学校側で揃えていただきましたが、ご近所からかき集めたとのこと。やはりきちんと調律された楽器の手配を要望に応じて調達できる環境は必要だと感じました。